

元祖オバQの声

面我町子



オバQの経緯

—オバQ役を担当されるまでの経緯をお聞きしたいのですが…
まだアニメが始まる前に、不二家がオバQのフーセンガムのコマーションで、「オバQの声をやってくれ」という話が来たんです。

—コマーションは事務所からの紹介でしょうか？
紹介ではなく、直接です。たぶんその前にやっていた『チロリン村とくるみの木』のつぼみのリップちゃんあたりを買われたんだと思います。
—そのお話以前に「オバQ」の漫画は御存じでしたか？
当時は忙しくて漫画見るヒマはなかったんです。それでコマーションの話が来た時に「こういう漫画です」って見せられて、ハッキリ言って最初「エッ」と思っで。気持ち悪い、というのが第一印象です。

—「何だこれは」みたいな。そう。でもやってみるうちにだんだん愛情が出てきて、とつても可愛くなったけど。

—その時はどのような感じで演じられたんですか？
どういいう声を出せばいいか考えて、あたしが出る声の中で普通にやりました。だからコマーションの時はちょっとおかしかな、というぐらいです。

—それから大分経ってから「今度はTVでやりますから」って、オーディションの連絡が来たんです。あたしはあまりオーディションってやった事ないんですけど、その時は黒柳徹子さんとか、もうそうそうたるメンバーが集まって。でもあたしはコマーションの時に一度やってるから気合いを入れて、結局あたしに決まったんです。
決まっからもう一度改めて漫画を見て、「どういいうイメージでいこうかな」って役づくりをしたんです。コマーションは一発勝負だけど、今度は動くから。「オバQ」に限らず、あたしはまず演技プランを立てるんです。仕事というのは自分が楽しくまなくっちゃ。自分が楽しいから、見

ている方も楽しい。己がしっかりと役をつかんでなかったらダメなんです。

—当時のアフレコの様子などを教えてください。あつたさい。
最初の白黒の時は、絵がひどかったんです。例えばオバQが大きくなったり小さくなったりで、一定してなくて。声って絵につられちゃうから、困っちゃった(笑)。

あとアドリブを頻繁に入れようって。あたしは子供番組ずっとやってきたから分かるけど、子供はごまかしなくてかかないから、台本に書かれた事だけじゃ喜ばないんです。アドリブっていうのは、感じた時に出すものだからハーサルする時にはあんまり出さないんです(笑)。
でも周りが慣れてる人じゃないと、NGになっちゃうんです。1・2回はそうなんでもだんだんやってくうちにみんなノッてるようになって、こっちでアドリブ入れると、ボーンと受けてくれる。

リラックスした上での緊張感、っていうのかな、笑ったらNGになっちゃうから、下向いて笑いを堪えて

る人が随分いた(笑)。本当はNGでも「面白いから使っちゃいますよ」って時もあったり。

—共演された声優さんについてみんなマジメだった。生真面目な人が、演じる時はかえってマンガチックになれるのかもしれない。

オバQブームの頃

—曾我さんは「オバQ」がブームになるといふ予感みたいなものはありませんでしたか？
「すごいな」というのは感じるけど、ブームだっっていうのは、その時にはわからなかったです。

—当時ファンレターがたくさん来たそうですが。
すごかった。最初は一生懸命返事を出してたんだけど、追い付かなくて、年賀状とかでまとめて出すようにしたんです。

—それも全部御自分で？
そう。だからそのおかげで(こちらに手を見せて)ペンだこがで

やった。
あの頃の事で憶えているのは、名古屋でアニメの視聴率が50%いったんです。それで「来て下さい」とって声がかかって、どこだったか確か海岸近くでやったオバQ大会に出た時に、その会場はあたしが泊まった旅館から歩いてすぐの所だったんですが、当日支度して出かけようとしたら、玄関にバトカーが停まっている。「何かあったのかなあ」とって通り過ぎようとしたら、「曾我さん、これに乗ってください」とって（笑）。聞いてみたら、人が多すぎて、とても会場まで歩いていける状態じゃないって言うの。

— 護衛にバトカーが？

そう。バトカーで舞台のすぐ横まで行ったんです。そしてイベントが始まったら、子供たちがみんな舞台の前に押し掛けてきて。スタッフが注意しても全然きかないの。それでイベントが中止になりました。でも子供たちが、こんなに喜んで来てくれるんだから、あたしが舞台から子供たちに「みんないい子にしないよ」と、中止になっちゃうよ

って言ったの。そうしたら子供たちも、中止になったらイヤだから「え？」っていう感じで止まってくれて。「じゃああたしが歌をうたうから、これ以上前に出て来たらダメよ」とってその場をなんとかおさめたんです。それはすごいですね。その時はどんな事やりましたか？

いつものオバQ大会だと自分で司会もやって、子供たちにオバQの歌や「オバQ音頭」の踊り方を教えたり、ゲームをしたりするんですけど、その時は危ないからゲームは止めただんです。

終わったら子供たちが今度はサインしてもらおうとパンチミミとか、いろんなもの持ってくるんです。スタッフは「サインはしないでいいです」とって言うから、あたしが「かわいそうだよ」とって言ったら「曾我さんがつぶされたら大変ですから」（笑）。

でも、ファンの人から教えてもらったんだけど、前に何かのラジオ番組で「あの頃、忙しいのに一生懸命書いてくれたあたしのサインはまだ持ってます」と、っていう人がいるって。

て。それならあの時あのパンチミミにもしとけばよかったかな（笑）。

— 二家のデンマーク旅行のお話を聞かせください。

不二家としては、オバQと一緒に行くという事なんだらうけど、不二家のスタッフって案内役みたいな人が1人だけで、大人の女性ってあたたししくないの。だから夜遊びに行こうって、できないの（笑）。で、子供たちがホテルの部屋で靴下洗ったりしてるの。それでいきなり熱湯出しちゃったりするから、みんなに「まずお湯を出す時は温度を確認してからね」とって言っても「うわー」とって大きな声が聞こえてくるの（一同笑）。

— まるで珍道中ですね。

でも感心したのは、ドイツで飛行機の調子が良くないから急遽パーデンバーデンに近い所で一泊したんです。予期してないから見所もないし「子供たちは連れてってもらって来るから喜んでるけど。あたしもバーにバーに行っちゃって楽しんできたので、翌朝出発するんで支度して

●本インタビューの転載はお断りいたします。
降りてきた時に、子供の1人が「トイレに行きたい」と言うの。「トイレに行けば通じるよ」「でも通じないんだよ」そうしたらその子が「いいこと考えた」とってトイレの絵を描いたのね。それがうまいの。引く張るひもまで描いてある（笑）。それをホテルの人に見せたらちゃんと通じて。それからどこへ行くんでも紙と鉛筆を持って、何か聞く時は絵でね。それで結構言葉には困らなかったんです。

「オバQ音頭」レコーディング秘話

— 「オバQ」では何曲か歌を歌われていますか？

「オバQ音頭」の時は、実はあたしすごい風邪をひいていて、「すみません」がレコーディングの日を延ばしてもらえませんか」とって言ったんだけど、ちょうどその時日本コロムビアがストで、普通なら「うちもストですから延期しましょう」とって事になるんだらうけど、管理職の連中が現場の仕事ができるから、って張り切っちゃって。

PROFILE そがまちこ

東京都八王子生まれ。声優として、NHK人形劇『チロリン村とくるみの木』（1961）『オバケのQ太郎』（65～68）『サイボーグ009』の007・グレートプリテン役（65～68）、俳優として東映『5年3組魔法組』（76）のベルバラ役、『レインボーマン』（72）のゴッドイグアナ役、東映での『太陽戦隊サンバルカン』（80）『電子戦隊デンジマン』（81）『時空戦士スピルバン』（86）『恐竜戦隊ジュウレンジャー』（92）の悪の女王役ほか、さらに『ジュウレンジャー』のアメリカ版『パワーレンジャー』（93）の魔女リタ役で国際的な人気を得た。—2006年5月、惜しまれつつ永眠。



●他にも曾我さんからは「オバQ」以外の出演作や、旅先での出来事など、貴重なお話を色々伺いする事ができたのですが、今回はオバQのお話をメインで紹介させていただきました。曾我さん、本当にありがとうございました。2001年3月3日 国立市 ストラにて ●テキスト・恐未生 レポート・蝶野光秋 撮影・清水俊文

コ「石川進さんのスケジュールがこの日しか取れないんですよ」

曾「じゃあ声が出ませんけど、なんとかやります」

コ「あ、声が出なかつたら、黙ってでもいいですか」

だから「オバQ音頭」は、声が出ればもっと面白く歌えたはずなのに……あれは日本コロムビアのせいなんです。

— 「オバQ音頭」は当時ものすごく売れたんですよね。

そう。レコードっていうのは売ろうとして売れるもんじゃありません。こっちが「もう最悪だよ」なんて思ってるのが、売れちゃったりするんだから（笑）。

あたしは大人の歌もうたつたけど、オバQに限らずキャラクターの歌っていうのは、その役になり切ってたのしく歌えはいいんですから、あんまり上手に歌ったら面白くないんです。

オバQの別れ、そして……

— 「オバQ」が終了した時の経緯な

どはお聞きになりましたか？
あたしの耳には何も入ってこなかったんです。普通はひとつ番組が終わると寂しいんだけど、当時は忙しくて、他にもドラマとか色々仕事があったから「あー終わった終わった」とって感じで、寂しいなんて気持ちも味わってないままなりました。

オバQが当たっている時は無我夢中でやってただけで、街歩いても「オバQが歩いてる」なんて言われるのがイヤで、一度「一切仕事はやめます」とって絵の勉強、という事でイタリアに行つたんです。その時には、役者をやるつもりで。

でもローマの学校行っている時に、日本の観光客にまで「オバQさんじゃないですか？」って聞かれたんです。ローマまで来てオバQじゃ……。オバQから逃げようとしても、ついてくるんです。

それで考えたんです。「もう逃げまい」とって。もう一度日本に帰って、オバQとか何言われようともどんどん子供番組やろうって、決めたんです……。 (一)